

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第4回）「表現力の育成」部会 要点記録

開催日時	平成21年7月27日(月) 午後2時10分～午後4時25分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1905会議室	
出席者	委員	村松賢一、苅部一夫、片柳博文、加藤芳和、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	谷川拓也 指導主事

部長

第4回の練馬区小中一貫教育資料作成委員会を始める。前回、各先生から専門分野の表現力の定義、あるいはどんな要素があるか、練馬の子どもたちにどんな表現力をつけたらよいかという観点で意見をいただいた。

前は意見をまとめきれなかったが、今日は皆さんからいただいた意見をもとに、表現力を本部会でどのように定義し、どんな部分に光を当てて提案し資料を作っていくかというところを明確にして固めていきたい。

第3回の後、7月16日に事務局と副部長と私の3人で話し合った結果を説明する。まず「表現力」とは「コミュニケーション力」の基礎となる力であるということを確認した。さらに本部会では表現について発信する方にしぼるが、ただ一方的に発信するのではなく「相手意識」を重視するという。もう1つ「表現力」というとスキルに走りがちだが、発信者が自分の考え方や思いを持っていること（「思考」）が大事だということ。その他にはスキルの中心的なものは「言語力」であり、言葉を中心にしていくが、言葉以外の「ICTなど多様な表現」についても扱うことを確認した。

最終的にどんな活動をイメージするかについては「プレゼンテーション力」ということで部会を進めてはどうかということで3人一致した。ここまで話し合い、それぞれが前回の会議をもとに考えまとめた資料を用意した。これらについてはあくまでもたたき台であり、皆さんが考えてきていただいた表現力の構成要素と照らし合わせながらご覧いただきたい。少しでも形あるものに固めていきたいと思うのでよろしく願いしたい。

まず、事務局からコメントいただきたい。

事務局

私は「表現力」をまとめた。前回話し合われた「社会的表現力」「論理的表現力」「自己表現力」の3つの視点から表現力をとらえると、「論理的表現力」は教科のなかで身につけていくもの。「社会的表現力」「自己表現力」は教科外の時間に体験的な活動を通して育まれるものとした。

「社会的表現力」の要素として、発信に関しては「言語を使って思いや考えを効果的に伝えていく力」「作品を使って思いや表現したい内容を効果的に伝えていく力」。相手意識では「TPOに応じて言葉を使い分けていく力」。また練馬区の答申にもあるので「互いの意見を尊重して話し合う力」も付け加えていただいた。

「表現力」の要素の組み方として受け止める力、論理的に思考しまとめる力、そして発信する力の3つに大きく分かれると考えた。その基盤として伝えたい、聞きたい、知りたいという気持ちなど、情緒面で大きくかかわってくると思う。その他に言葉を発する力や読む力などあるが、今日の話合いでいろいろな要素を加えていただき充実させたいと考える。

部長

今の資料の文言などは吟味したものではないので、たたき台であるということを再度ご確認いただきたい。

私は部会の最終目的である「どんな子どもにしたいか」をイメージしやすいよう、絵（イラスト）と図で表した。「考えや思い・願いを最も効果的に表現する」ため一人ひとりが自分の考えや思い（考える力）をもっていることが大前提になる。また言語スキルを身につけ、ICTや様々な表現方法を駆使して自分の思いを伝える。それを総合的に「伝える力」とする。

一方で、聞き手や話し相手、様々な立場の人を意識した言葉づかいや態度である「社会的なスキル」も身につけてほしい。これらを「表現力」ととらえ、資料を作ってはどうかということで用意した。

委員

話し合いでは、自分のことを表現する具体的な活動を挙げることで、カリキュラムの中身を詰めていけるのではということになり、それぞれの学年での表現活動を例として挙げた。それぞれの活動でどんな力が発揮されているかということについては皆さんの意見も聞きながら、帰納的につめていきたい。

事務局

前回話のあった表現大会というのは「上級学校訪問報告」「学芸会」「2分の1成人式」なども含めてのものにとらえている。これら行事からねらいや身に付けさせたい力を具体的にしやすいと考える。

部長

意見をお願いしたい。

アドバイザー

先ほど「自分のことを表現する具体的な活動」ということで例が出されていたが、それは自分をプレゼンテーションするもので、一般的にプレゼンテーションといった場合の調べたことを発表するものは含まないのか。

委員

自分のことが中心になるが校外学習のまとめや上級学校訪問が調べたことの発表になる。

アドバイザー

歌や踊りなど気持ちや心の表現という情意的なものはプレゼンテーションの中に入ってくる

のか。

委員

「2分の1成人式」などは自分自身の思いや将来こうなりたいという情意の部分を含むと思う。

アドバイザー

それはあくまでも言語表現が中心。音楽や絵をプレゼンテーションの手段として使うのはあり得るが、絵を描くことや歌を歌うことそのものは教科の学習であり、本部会の表現力には含まないという考えか。

部長

第3回の部会の話し合いのなかで、音楽など多様な表現手段として駆使していくという方向だったと考えたが。

アドバイザー

プレゼンテーションといった場合のイメージを共有するため確認したかった。是非については皆さんで話し合えばと思う。

もう1つTPOに応じた言葉の使い分けはプレゼンテーションのなかには入りにくい。社会的スキルというのは気持ちのいい謝り方やお礼のいい方など対人的な関係を良くするための言葉の使い方、プレゼンテーションとは違うと思うが。

部長

同級生・クラスの子どもだけでなく、保護者向けや地域・福祉施設に出向いての表現などいろいろなプレゼンテーションの場ではそれぞれの相手に対する言葉づかいが必要になってくる。

アドバイザー

また後で私の意見は述べたい。

部長

まだおおよその方向性を決めただけだが、これをたたき台にするということで疑問点などあれば意見をいただきたい。

委員

外側にコミュニケーション能力がありその内側の表現力の力をつけていこうという考えだと思うが「練馬区における表現力」の四点目に「伝え合う力」というのがある。これは表現力の外側のコミュニケーション力にかかってくるもので、発信にシボるなら表現力として取り上げることは疑問だ。

部長

「伝え合う力」と入れてしまうと具体的な活動まで入れなくてはならない。前回の部会では伝え合う力まで求めるのは難しいという発言があったかと思うが。

委員

私が前回発言したのは、まだ表現されていないことを引き出すのは難しいということだ。ただ、伝え合うことは絶対必要で国語では教科の目標にもなっている。発信だけにするとということであれば触れなくてもかまわないが、論理的に討議する力をつけるということであれば少し矛盾してくると思う。

部長

前回、発信だけにしぼろうという意見があり、このような形で提案させていただいているが、活動の資料を作ることも想定しての意見をいただきたい。

委員

いろいろな方法のプレゼンに向けて、どんな手だてをとりながら表現力を育てるかということ。プレゼンした後で話し合いや意見交換はするが、その活動まで入れると1段階踏み込まなくてはいけないので、本部会ではプレゼン、要するに表現力まででとめた方がよいと思う。

アドバイザー

賛成です。ただ表現がその人のなかで完結し終わっていいということではなく、伝わることで新たなつながりや関係を生み出すためのものにとらえておいた方がよい。

本部会が「この力を目指して」という場合には表現力にしぼり、ここに焦点を当ててはいるが前後の伝え合う活動は当然踏まえているということ合意しておいた方がいい。

部長

事務局からの資料で社会的表現力は「知らない人と社会を作るために必要な力」という文言でよいか。例えば「互いによりよい関係を築くために必要な力」なのではないかと思った。それから体験活動を通して育まれる力の“体験活動”は学習場面以外の体験という意味か。

事務局

総合的な学習の時間などを想定した。

部長

もう1つ自己表現力という言葉があるが、アドバイザーの言われる自己表現力や私の使ったICT等の多様な表現力とは意味が全然違う。このあたりが混在している。「〇〇力」という言葉は便利だが形が見えづらく、「〇〇スキル」とともに吟味していく必要がある。社会的表現力、自己表現力、言語スキル、社会的スキルなど言葉の定義のようなものをはっきりさせた方がよい。

アドバイザー

プレゼンテーションにずっと焦点を当てていくとすると、言葉づかいや敬語、場面に応じた社会的表現力の部分はどうなるのか。到達イメージとして社会に出ることを前提としているので一人前の社会人として恥ずかしくない言葉づかいができることには期待したい。満員電車から降りる時に「ちょっとすみません、降りますから」と言う、席を譲る時に黙って立つのではなく「どうぞ座って下さい」と言葉が伴うような社会人として最低限身につけてほしいものを表現力のなかで培っていきたいという希望がある。

皆さんがあれもこれもできないから、発信力・プレゼンテーションにしぼるというのであればそれでも構わないが、多くの教科のなかでもプレゼンテーションはやられており、教科の学習から漏れる部分の表現力は教科外の時間で養う必要がある。つまりプレゼンテーションという系列と社会的表現力という系列の2つは両立するのが可能で、どちらが主なのかといった時には、プレゼンテーション・発信力だというのは構わないと思う。

委員

重要なことだと思う。校外を調べプレゼンするにも、まず町に行って地域の人に話を聞く。その時「すみませんけれども」とかきちんと学校名を言うといった、人に対してきちんと自分を表現しながら関係をとらえるのはとても大事な力が必要。総合でもできるし道徳で役割分担みたいにならなくても身につけていけると思う。

委員

伝える力に焦点化されたことは大きな飛躍と受け止めるが、さらにプレゼンテーションとなるとぐっと狭まったように感じる。相手の存在を認めて、相手との関係も大切にして伝えていく視点がなければプレゼンテーションはスキルのものに偏ってしまうというイメージがある。

委員

小学校では2年生が1年生の手を引いて学校案内し、説明するときに1年上のお兄さんとしての言葉づかいを学ぶ。6年生も「移動教室を10倍楽しくなる方法」と称して5年生を招待し、総合で発表会をした際に5年生に対して6年生としてコミュニケーションをとっていく。

社会的な表現力の基礎を第Ⅰ期、第Ⅱ期でたくさん耕す活動をし、それをもとにきちんとプレゼンできるようになっていくのではないかと思う。

部長

ここで確認しておくが発信することと相手を意識することが対になるぐらい重要ととらえている。社会的スキルは、相手を意識した言葉づかいや態度、敬語、社会に出たときの一人前の言葉づかいも含まれておりその要素を落とすつもりはない。

プレゼンテーションという言葉を使うと私の絵のイメージしかなくなるし、副部長の活動例もこのプレゼンのイメージのものしかないので、誤解を与えたと思うが「自分が発信する」、「伝える力」に光を当てるとのことだ。

今挙げた活動例をイメージすると、社会的なコミュニケーションスキルには触れにくいかな。

アドバイザー

これを見てもう入らないと思った。

部長

プレゼンを強調した活動例があり、もう一方に相手を意識した社会で通用するコミュニケーションスキルのような活動事例を提案していく。あるいは地域の人や福祉施設の人たちに取材に行き調べる活動のなかで社会的なスキルを体験し、それを発表の場でプレゼンするような一連の活動として提案していくということでしょうか。

委員

今は学年に分かれているが、Ⅰ期なら自分のことがここまで言えるとか電話にちゃんと対応できる、Ⅲ期ならTPOに応じてきちんと話ができるといったようにⅠ～Ⅲ期で大きく3つに分けて考えた方が、発達段階に応じた社会的表現力の活動と自己表現力の活動をタイアップして上手くあわせていけるのではないかと。

委員

はっきりと文言で「相手を意識してどういうふうに伝えるかというのを考えたプレゼンテーション」というようにあわせればいいのではというのが1点。

また、校外学習で事前に職場を訪問するが、あらかじめ敬語で相手に尋ねることを学校で練習する。そういったものだけ取り出すのもどうかと思うので、全体の活動の流れに含めていければいいと思う。

アドバイザー

活動を取り出すとソーシャルスキルトレーニングのような1つのプログラムになってしまうので、あまり賛成ではない。ただしこの学年ではここまでやっておきたいという押さえは必要なので活動のなかに埋め込めれば自然だと思う。そういったことも我々は大事にしているということを確認しておいた方がいい。

部長

活動事例を考え資料を作っていく上でプレゼンという時間・場面があってもいいが、そこだけの事例を出すのではなく前後の一連の活動、言いかえれば単元全体を提案していくという理解でいいか。

委員

基本的にはいいと思う。

話は変わるが先ほど私が挙げた活動例でも小学1年生の自己紹介では「はっきり話せる」ことが大切だが、中学1年生の自己紹介では自分自身の考えや期待するものが加わるというように、いろいろな活動事例から各段階における表現力を構成する力も分かるだろうという思いがあったことを理解いただきたい。

当然、相手意識や態度・行動・言葉づかいも入るし、発表するまでの社会的なコミュニケー

ションスキルも含まれてくる。

部長

次に皆さんに考えてきていただいた表現力の構成要素。この後、マトリックスを作るのに必要になる。縦にⅠ期～Ⅲ期。横軸には表現力の構成要素として「言語力」「社会的な表現力」「スキル」など入れていくものを考えていかなければならない。大きな枠としてプレゼンと別枠で「社会的スキル」をもってくる方法もある。

アドバイザー

プレゼンの下に社会的スキルが入ればいいと思う。低学年のうちはきちんと保護者に挨拶ができるというようなことを書いておき、全体の単元のなかで保護者を招いて発表会を行う時に保護者を案内するとか、そういう場面を通して力をつけるということなので別枠で出す必要はない。

部長

それでは考えてきていただいた構成要素と思われるものを付箋に書いていただきたい。

委員

構成要素のくくりを小さく考えてきたので「言語力」のような大きなくくり方だといくつも出てこないと思うが。

部長

最初から当てはまらなくても、とりあえず出していただきまとめられるものはまとめるということにしたい。最初に私だが「考える力」。それらを伝えるための「言語スキル」。それから「社会的なスキル」。最後に先の時代を見越して触れておきたい「ICTスキル」。

委員

構成力という意味での「論理性」。「表情・行動」。考える力に近い「考え・気持ち」。「語彙力」。音感や色彩感覚などもあるかなと思う。

委員

まとめる力である「構成力」。大まかにとらえる「イメージ力」。「真似る力」も小学生には大事かと思う。それから「表情」「聴き取る力」「心情を読み取る力」も大きなポイントかと思う。それと自分の良さを知って表現するための「自分を理解する力」。

委員

第Ⅰ期として「自分の考えや思いを持つ力」。第Ⅱ期では「考えを広げ練り上げる力」が入り「考えを高め、生かす力」につながっていく。全体に「想像力」、第Ⅱ期から下で「説得力」、後半から強くなる「目的意識」、だんだん太くなる「言語力・語彙力」。

委員

「語彙力」は大事。学年が上がるにしたがって大事になる「情報収集力」。「身体表現」もあるかと思う。学級・学年の雰囲気なども含め意識しないといけない「集団」。それから「経験」。発表するにも2人で発表したり、グループのなかで発表したり、年齢に応じた経験・体験が必要かと思う。

委員

「素直に感じる力」が必要だと思う。「歌・器楽に自分の思いを込めて表現する力」「相手に合わせた言葉づかい」も大事だと思う。先ほども出た「説得力」、「調べたことをまとめ発表する力」も必要だと思う。

委員

中学生になっても必要と思う「素直に」。あとは「分かりやすい」。これに関連しては(視覚・聴覚で)「興味を持たせる」。頑張ってもプレゼンしても誰も興味を持ってくれないと面白くないので、聞いている人が楽しくなるようなプレゼンができるようになればいいかと思う。

委員

まず「想像力・発想力」。それから「(思いや考え・情報を言葉や文字に置き換える)語彙力」。それを文章にする「(場面に応じた手紙や文章を書く力)文章力」。相手意識ということでは「(年長者や相手に応じた話題や説明ができる力)相手に応じる力」。あとはいかに表現するかという「(機器や手段を工夫し効果的に伝える力)技術力」。

事務局

「語彙力」は一緒です。あと「相手意識」、伝える時には「デザイン」も必要と思う。小さいうちから場面を踏んでおく「度胸」も必要だと思う。最後に子どもたちに意欲付けしておかなくてはならない「知りたいという気持ち」と「発表したい・伝えたいという気持ち」。

部長

ありがとうございます。

委員

皆さんから出された構成要素は「受信」と「発信」の2つに大きく分かれ、それを橋渡しするようなものも入っていると思う。マトリックスを作る時にこれらを全部同じレベルで並列にしているのか。橋渡しになるようなものと分けた方がすっきりすると思うが。

委員

先ほどは発信にしぼるということだったが受信についてもカリキュラムに載せるのか。

部長

載せないつもりだ。聞き取ることも必要だがここでは扱わない。

アドバイザー

最終の表現に至る過程では、聞き手に思いを巡らせるということがある。表現するための始まりである「情報収集」というのも落ちてしまうとすれば、最終的な表現力が説得性を持ってなくなってしまう。

部長

とりあえず（「受信」と「発信」に）分けてみる。

委員

もう少し整理してからの方がいいのではないか。

アドバイザー

表現が最終段階になり、「度胸」などはその段階での大事な要素だが、その前に頭のなかでの働きに必要なものがある。もっと前には「情報収集」などもある。表現に至るまでの学習過程で整理した方が整理しやすいのでは。

（各委員の意見を聴きながら、表現力の構成要素を時系列で整理）

【整理結果】

- ①最初の段階～「知りたいという気持ち」「考え・気持ち」「考える力」「自分を理解する」「発表したい・伝えたい気持ち」「自分を理解する」「素直に感じる力」「想像力・発想力」「聞き取る力」「目的意識」など
- ②構成の段階～「話の構想をまとめる力」「よい説明を真似る力」「情報収集」「考えを高め、生かす力」「考えを広める」「聞き取る力」「構成力」など
- ③発表の段階～「語彙力」「言語スキル」「イメージ力」「視覚」「聴覚」「デザイン」「分かりやすい」「機器の活用」「経験」「度胸」「説得力」「調べたことをまとめ発表する力」「表情」「身体表現」など
- ④最終の段階～「相手意識」「心情を読み取る」「相手意識」「楽しく」「興味を持たせる」など

部長

一応まとめてみた。別の観点でまとめてもよいが。

委員

今は表現に至る過程で分けているが、別のグルーピングもあるかもしれない。グループ分けした場合、それぞれのグループを代表するような言葉が何かないか。

アドバイザー

はっきりした声、ゆっくり話すなど「声」の要素がないので加えてください。

委員

それぞれの（グループの）中で上位の言葉と下位の言葉に分類すれば上にあがってくるものがあるのでネーミングできる。

部長

プレゼンでは言語が中心になってくるので「声」の大きさなども含めて「言語」「語彙力」などのグループをとり出した方がよいか。

委員

「声」の大きさなどはプレゼンの工夫になる部分で「語彙力」とは違う。

部長

声の大きさなどなら表になると思うが、小学校段階から「語彙力」をこのように高めていくというのを表にするのは難しいと思う。

アドバイザー

「語彙力」といったらどこかにあてはまるものではなく、全学年を通して指導する項目だと思う。

部長

第1回にアドバイザーからいただいた資料にマトリックスがある。第I段階にあたる部分でスピーチや情報の交流というのがあり、それらの大きなくくりとして言葉の力となっており明快なマトリックスだと思う。

アドバイザー

説明する。プレゼンを自分の思いを交流するスピーチのようなもの、情報を伝達するためのプレゼン、自分の意見・主張が入ってくるものの3つのタイプに分けた。タイプごとに必要な言葉の力が違うと思う。言葉の力については「聞く力」「話す力」「相手の言葉を受けて応じる力」「話し合いを運ぶ力」に分けており本部会では「話す力」が参考になると思う。それぞれのタイプの話す力をできるだけ具体化したつもりだ。

部長

この中では発達段階に応じたマトリックスが書かれており、特に言語は中心的なことなので本部会が提案すべき活動例に必要な言語力は提案しなければいけないと考える。

呼び方は別として大きなくくりとしての「言語」は押さえておく。

委員

プレゼンという大きなくくりがあつてその中に『調査』（『調べる』）『構成』（『組み立て』）『発表』がある。私が挙げた「視覚」などを入れると細かくなってしまふ。学年が進み工夫する中

で「視覚」を活用するという事なので、1つの縦にすると細かくなりすぎる。

部長

最後のグループを『相手意識』とし大きく四つに分けた。「言語」を『発表』に入れるかこれだけ取り出すか。私は取り出した方がいいと思う。

委員

教科の中でつけていただいた「語彙力」を本部会が目指している時間内で発揮すると考えるとその中には入らないと思う。

委員

本来、授業のなかで養うものではあるが、自分の体験や経験を言葉に置き換える作業がないと言葉として発する（表現する）ことはできない。

部長

語彙力を高めるような活動事例の提案は難しい。国語の時間にやってもらわなければならないと考える。

言語も含めた発表の部分を『分かりやすく効果的な発表』ということでまとめてもよいか。大きく四つということでもとまりかかっている。

委員

次回、事務局で整理してマトリックスを作成してほしい。

事務局

ただ学年進行と合わせていくのは難しい。今は横軸だけ整理して並べ、縦を作っていく作業を今度お願いしたい。

部長

横軸をまずはきちんと決めなければならないが、その時にも縦軸のことを意識して決める必要がある。だから言語は独立させた方がよいと思う。

部長

まだまとまりきっていないが、皆さんの思いや考えはよく分かった。また副部長、事務局と3人で話をして次回に臨みたい。

アドバイザー

3人には三つ、四つの表現力の要素ごとにこういう力をつけたいというものを具体的に縦軸に整理してもらいたい。我々はそれを見て、そういう力をつけるためにどういう活動がふさわしいかという活動例を考えるという手順になると思う。

部長

少しめどが立った。

(第5回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

8月27日(木) 15:30～ 於. 練馬区役所本庁舎 11F 1103 会議室

事務局

次回の部会で9月の予定を決めたいと思うので、予定表の持参をお願いしたい。

部長

これで第4回資料作成委員会を終了する。